



飢餓から救う。未来を救う。
Saving Lives. Changing Lives.

国連WFP協会 年次報告書2018

国連WFP協会 年次報告書2018 [発行]特定非営利活動法人 国際連合世界食糧計画WFP協会



ご寄付への感謝を込めて

2018年(1月~12月)に皆様からお寄せいただいたご寄付によって、世界中の人々に食料を届けることができました。現地における支援活動や、日本国内での取り組みについてご報告します。

ごあいさつ

日頃より国連WFPにご支援を賜り、誠にありがとうございます。本年、国連WFP協会は1999年の設立から20周年を迎えることができました。日頃からの皆様のご協力に、あらためて深く感謝申し上げます。2018年、国連WFP協会にお寄せいただいたご寄付の総額は約13億3千万円となり、当協会発足以来、最大のご支援をいただくことができました。これらは全て皆様のご支援・ご協力の賜物と心より感謝しております。しかし、世界の飢餓を取り巻く状況には改善の兆しがまだ見られていません。2018年の飢餓人口は8億2,100万人となり、3年連続で増加が続いています。各地で、紛争や武力衝突が勃発し、日本での報道は非常に限られていますが、例えばイエメンでは人口の約7割が食料不足に苦しみ、「世界最悪の人道危機」と言わ

れるなど、惨禍が続いています。また、農業生産に悪影響を及ぼす気候変動や、干ばつ・洪水といった異常気象も、飢餓に拍車をかける重大な要因の一つです。国連WFPは、命の危機に直面した人びとに食料を届け、未来への希望を支えるため、全力で活動しています。引き続き飢餓ゼロを目指す活動に皆様からのご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
国際連合世界食糧計画WFP協会 会長
安藤宏基

◆ 国連WFP協会とは

特定非営利活動法人 国際連合世界食糧計画WFP協会(国連WFP協会)は、飢餓をなくすことを使命とする国連唯一の食料支援機関であるWFP国連世界食糧計画の、日本における公式支援窓口です。WFP国連世界食糧計画の活動はすべて、各国の政府の拠出金や、企業・団体、個人などの寄付金でまかなわれており、国連WFP協会は、民間を対象とした募金活動や、企業・団体との協力関係の推進、広報活動を通して

WFP国連世界食糧計画の活動を支えています。また、日本においては、「国連WFP」という総称を用いて、国連機関であるWFP国連世界食糧計画と、それを支援する認定NPO法人である国連WFP協会という2つの団体が協力して活動を行っています。国連WFP協会は、1999年に設立され、2005年より「認定NPO法人」に認定されています。

◆ 国連WFPは、SDGsの目標2の達成を目指しています



「持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)」は、「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「質の高い教育をみんなに」など、2030年までに達成すべき17の国際社会の共通目標をまとめたものです。国連WFPは、

目標2「飢餓をゼロに」が他の目標達成の基盤にもなるとの考えのもと、パートナーシップを通じてその実現を目指しています。

2018年 国連WFP協会 寄付金収支概要 ※1

【収入】



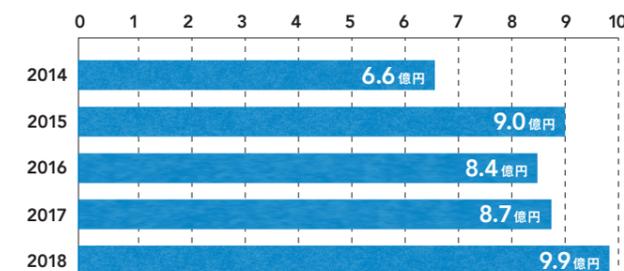
【支出】



寄付金総額 **13億291万8,658円**

※1 このグラフは2018年に国連WFP協会が受け取った寄付金の収入・支出を表しています(会費や事業収入は含みません)。国連WFP協会の総収入・総支出につきましては、13ページに掲載の「2018年度決算報告」をご覧ください。
 ※2 国連WFP本部との取り決めにより、寄付(個人寄付および企業・団体寄付)のうち75%以上は途上国での支援活動のため国連WFP本部へ送金しており、残り25%(上限)は国連WFP協会が国内で行う募金活動、広報宣伝活動、管理費等の国内事業費等に活用しています。2018年度の費用詳細につきましては、13ページに掲載の「2018年度決算報告」をご覧ください。

国連WFP本部への寄付送金額の推移



CONTENTS

- 1 ご寄付への感謝を込めて
- 5 国連WFP 2018年活動ハイライト
- 11 企業・団体の取り組み事例
- 3 送金実績および国連WFPの世界での支援活動実績
- 7 国連WFPの代表的な支援活動
- 13 2018年度決算報告
- 9 多方面にわたる支援の輪
- 14 企業・団体からのご支援

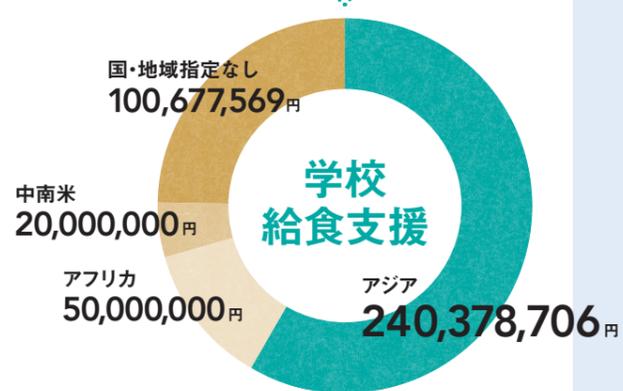
送金実績および国連WFPの世界での支援活動実績

国連WFP協会からの送金実績、および世界中で活動する国連WFPの支援実績概要をご報告します。

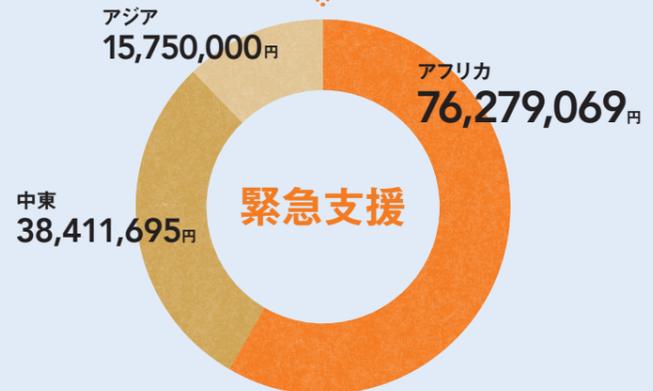
国連WFP協会からの送金実績

国連WFP協会を通じた日本の皆様からの寄付送金額はおよそ9億9,000万円となりました。そのうちのおよそ半分のご寄付である約4億1,500万円は、「誰も取り残さない」という方針のもと「使途指定なし」として送金し、国連WFPが最も資金を必要とする支援活動に活用させていただきました。

寄付送金額の内訳

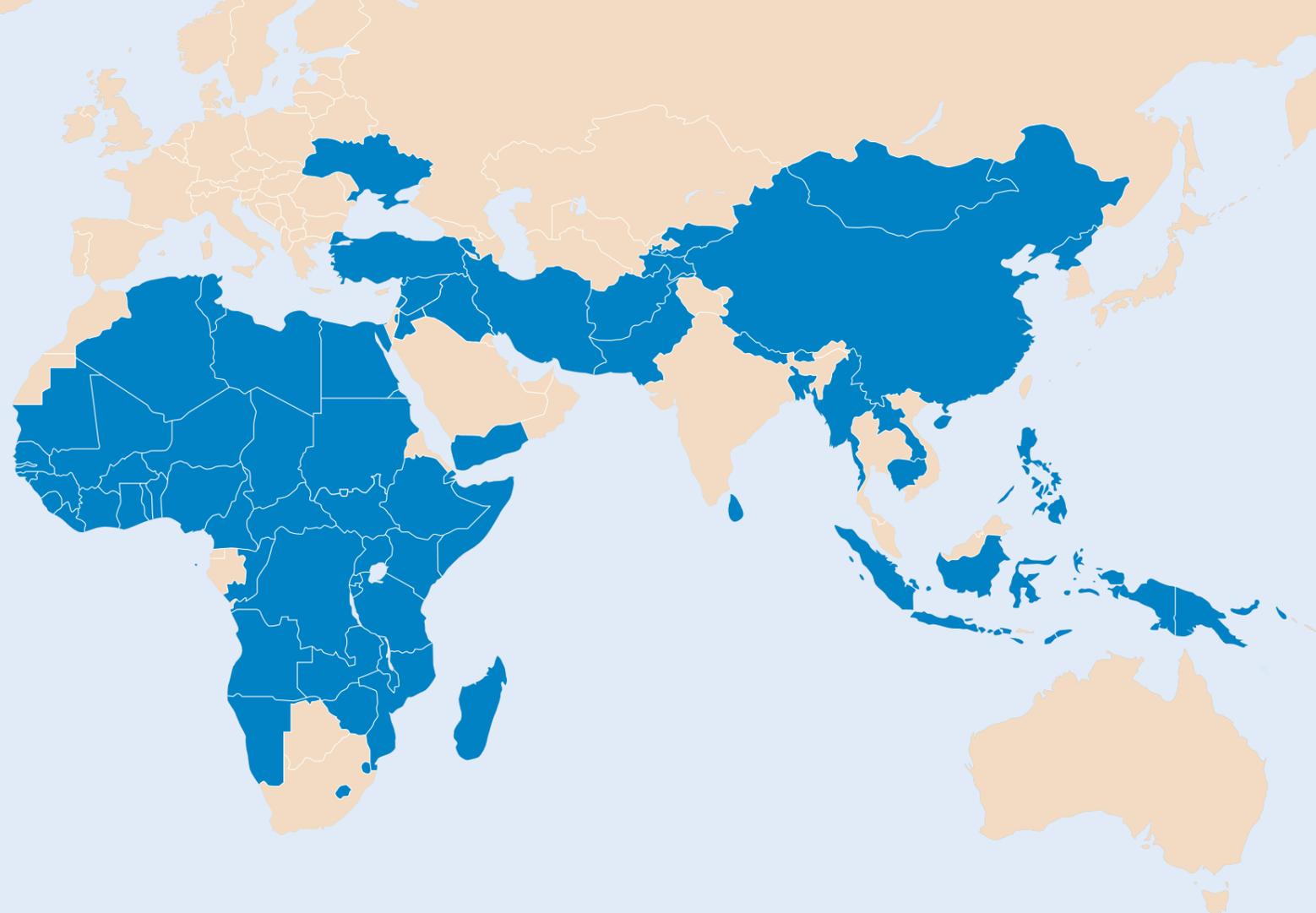


アジア		アフリカ	
インドネシア	30,508,177円	ガーナ	20,000,000円
カンボジア	26,250,000円	マダガスカル	30,000,000円
スリランカ	41,758,177円		
ネパール	30,075,860円	中南米	
バングラデシュ	30,000,000円	ホンジュラス	20,000,000円
ブータン	3,750,000円		
ミャンマー	78,036,492円	国・地域指定なし	
		100,677,569円	



アフリカ		中東	
ウガンダ	27,492,979円	イエメン	36,385,760円
サヘル地域 ※1	22,500,000円	シリア	2,025,935円
シエラレオネ	22,500,000円	アジア	
南スーダン	3,786,090円	バングラデシュ	750,000円
		フィリピン	15,000,000円

※1 サヘル地域は、サハラ砂漠を北部に擁した半乾燥地帯で、ブルキナファソ、チャド、マリ、モーリタニア、ニジェール、セネガルといった西アフリカ諸国にまたがる地域。



■ 国連WFP支援実施国 ※2

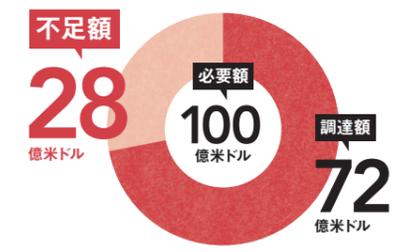
国連WFP 2018年支援実績 ※3



資金が不足しています ※3

世界中で人道支援のニーズがますます増加する中、2018年、国連WFPは72億米ドルの資金を調達することができました。しかし、これは必要とされた額・100億米ドルに対し、約3割にあたる28

億米ドルが不足した状況です。この資金不足により、国連WFPの現地職員は、支援対象者の選別や、支援量の削減など、苦渋の決断を迫られています。



国連WFP 2018年活動ハイライト

国連WFPが2018年に取り組んだ「レベル3」の緊急支援※、そして日本における国連WFP協会の活動をご報告します。

※「レベル3」の緊急支援…国連WFPの緊急支援活動には3段階のレベルがあり、最も急を要し大規模かつ複雑な段階。

イエメン

2015年3月に始まった紛争は、既に中東で最貧国であったイエメンを「世界最悪の人道危機」に追いやり、人口約2,800万人中1,700万人が食料不足に。この危機的状況に対し、国連WFPは毎月平均790万人を支援しました。



©WFP/Ahmed Basha

©WFP/Marco Frattini



©WFP/Jacques David

コンゴ民主共和国

武力衝突の激化、大量の避難民の発生、不作、貧困の蔓延などにより深刻な食料不足の人の数が倍増。国連WFPは460万人に食料や食料購入のための現金を提供し、57万7,000人に栄養支援を実施。2回におよぶエボラ出血熱の発生も同国における状況を更に複雑にしました。

サヘル地域

サハラ砂漠南部に帯状に連なる「サヘル地域」に、過去4年間で最悪とされる「リーンシーズン」が到来。リーンシーズンとは収穫期前の1年で最も食料が不足する季節で、気候変動の影響による干ばつや不作などにより580万人に食料不足の恐れが発生。国連WFPは緊急支援と共に、生活を長期的に支えるための自立支援も実施。



©WFP/Agron Dragaj

シリアおよび周辺5カ国

7年にわたる紛争で何百万もの人々が飢餓と貧困に陥り、国連WFPはシリア国内の480万人を支援。治安が改善した地域では生活再建のための自立支援も実施。また、シリア周辺5カ国(トルコ・レバノン・ヨルダン・エジプト・イラク)に逃れた250万人への支援も継続しました。



©WFP/Marwa Awad

バングラデシュ

ミャンマーでの武力衝突によりロヒンギャの人々が大量流入してから8月で1年が経過。コックスバザールの難民キャンプには、90万人以上のロヒンギャ難民が暮らしています。国連WFPは毎月88万人に食料をはじめ、食料購入のための現金支給プリペイドカードで支援。



©WFP/Saikat Mojumder

ナイジェリア北東部

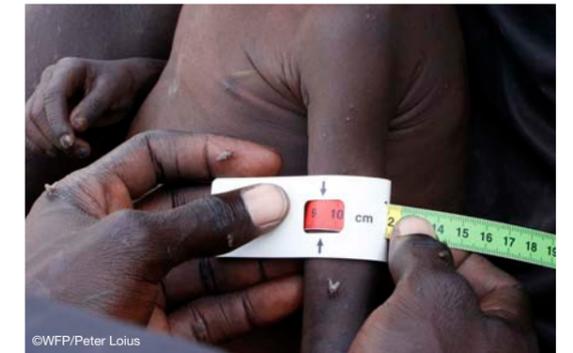
2018年前半は状況に改善が見られたものの、後半は新たに勃発した武力衝突により避難民の数が増加。国連WFPは緊急食料支援に加え自立のための支援を実施し、130万人を支えました。



©WFP/Rein Skullerud

南スーダン

長期にわたる紛争による農業の停滞や、続く経済危機が要因で、2018年も食料不足や人々の栄養状態は悪化し続けました。状況が壊滅的なレベルに広がるのを防ぐため、国連WFPは支援対象を532万人に拡大。



©WFP/Peter Loius

支援の輪を
広げるために

WFPウォーク・ザ・ワールド



©JAWFP

チャリティーウォーク「WFPウォーク・ザ・ワールド2018」を横浜(第13回)および大阪(第3回)で開催。参加者数は横浜4,707人、大阪1,286人にのぼり、参加費からの寄付金額は561万3,800円になりました。これにより約18万7千の子どもたちに給食を届けられました。

WFPチャリティーエッセイコンテスト



©JAWFP

「おなか空いた、なに食べよう！」をテーマにエッセイを募集、応募総数は過去最多の1万9,291通に。応募数に応じた協力企業からの寄付額は、過去最高の231万4,920円となりました。表彰式には特別審査員のふなっしーさんも参加し、会を盛り上げました。

世界食料デーキャンペーン



©JAWFP

食品ロス削減の取り組みを飢餓問題に対する支援につなげるキャンペーン「Zero Hunger Challenge ~食品ロス×飢餓ゼロ~」を実施。キャンペーンの柱「ゼロハンガーレシピ」では、食品ロスになりがちな食材を使った料理のSNS投稿を推進し、インフルエンサーの協力も得て9万件以上のSNSアクションが集まりました。

ゼロハンガーを目指して



©WFP/Kensuke Ito

©JAWFP

新たに国連WFPサポーターとして支援の輪に加わったEXILE ŪSAさんが、初めての現地視察としてホンジュラスを訪問。10月の視察報告会では、現地の様子や国連WFPの活動の成果などを語り、さらに飢餓問題啓発を目的とした「おいしいダンス」を披露して、支援の拡大を呼び掛けました。

国連WFPの代表的な支援活動

支援活動の概要や、2018年の送金先のプロジェクトをご紹介します。

国連WFPの支援は、「飢餓ゼロ」の達成だけでなく、貧困撲滅の推進、教育の普及やジェンダーの平等など多くの効果をもたらし、SDGs全体の目標達成に大きく貢献します。

学校給食支援

学校給食支援は子どもの栄養状態を改善し、勉強への集中力を高めます。特に家事のため家に留め置かれがちな女子の就学も促します。教育は国の安定と発展の礎です。



学校給食は社会的セーフティネットの役割を果たしています。 ©WFP/Giulio d'Adamo

食料危機に瀕する地域で給食を提供

マダガスカルは近年の政情不安により経済成長や開発が滞っています。特に南部の食料不足が深刻で、子どもの学校への出席率も低い状況です。2018年、国連WFPは南部の1,087校で285,978人に学校給食を提供しました。給食は栄養が強化されており、温かい状態で提供されます。ジョセラちゃん(12歳)の母親は「収穫が少ない時期には1日に1回でも食事をすることができれば幸せです」と言います。ジョセラちゃんの学校を含む20校では敷地内で育てられた野菜や家畜が給食に活用されています。また国連WFPでは、小規模農家支援も兼ねて地元で生産された食料を給食に使う取り組みも行っています。

貢献するSDGsの一例



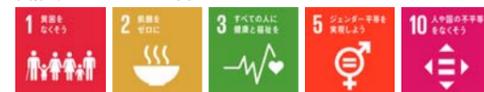
母子栄養支援

胎児から2歳までに十分な栄養を摂れないと、身体や脳の発達が遅れ、その影響は生涯に渡る恐れもあります。国連WFPは妊産婦と乳幼児の栄養支援を強化しています。

食料支援と子育て教育で母子を守る

パキスタンでは生後6カ月から5歳未満の子どもの約44%が発育障害に陥っています。国連WFPは、シンド州およびバロチスタン州で妊産婦と子どもへの栄養支援を行いました。シンド州の妊婦ズールさん(30歳)は脂質ベースの妊産婦向け食料に加え、子どものための微量栄養素パウダーの提供を受けました。また彼女は母乳育児、健康的な食事、衛生について学びました。出産後、息子のアブドゥーラくんは6カ月間母乳で育った後、国連WFPの発育障害予防のための支援を受けました。ズールさんによると、アブドゥーラくんは他の兄弟ほど病気をせず、背も高く育っているということです。

貢献するSDGsの一例



シンド州では栄養支援の結果、発育障害が10.2%減りました。 ©WFP/Silke Buhr

緊急支援

紛争や大災害が起きた時、まず必要とされるのが食料です。国連WFPはいち早く被災した地域に入り、人々に生きのびるための食料を届けています。



支援前のルイーダちゃん
2018年10月に診療所に到着した時のルイーダちゃんの体重は6.5kg。4カ月後、体重は8kgまで増えました。
(上) ©WFP
(右) ©WFP/Annabel Symington

支援後のルイーダちゃん

食料支援 — 時間との闘い

2018年に国連WFPが行った緊急支援の中では、イエメンに対する支援の規模が最大でした。紛争が続き食料不足が深刻化し、特に栄養不良の子どもが多く、事態は悪化し続けています。市場に食べ物があっても価格の高騰、失業および公務員への給与未払いにより、多くの人が食べ物を買うことができません。2018年10月に病院に来院したルイーダちゃんの腕回りは重度の急性栄養不良を示していました。父親のアブドゥルさんは「娘が死んでしまうかと思った」と語ります。4カ月後に再び腕回りを測った際は中度の急性栄養不良の表示でした。これでもイエメンでは進歩といえるのです。

貢献するSDGsの一例



自立支援

国連WFPは、職業訓練やインフラ整備などの対価として食料等を支給しています。中長期的に、住民自身が災害に強い地域づくりや、食料不足の解消に取り組むよう促します。

気候変動に負けない農業でより良い暮らしを

ホンジュラスでは人口の約60%が貧困下に暮らしています。特に、干ばつによる被害が深刻な西部・南部では、十分な食料を収穫できていません。国連WFPは、気候変動の影響を受けている地域で灌漑設備や農園の運営について技術支援や資金面での支援を行っています。イリスさん(38歳)は8人の子を持つ母親で、住民同士が作った小規模農家組合の共同農園で働いています。農園では、人参や赤カブなど様々な野菜が栽培されています。イリスさんは「以前はお米や豆だけの質素な食事でしたが、野菜を加えた栄養のある食事を作れるようになりました」と変化を語りました。

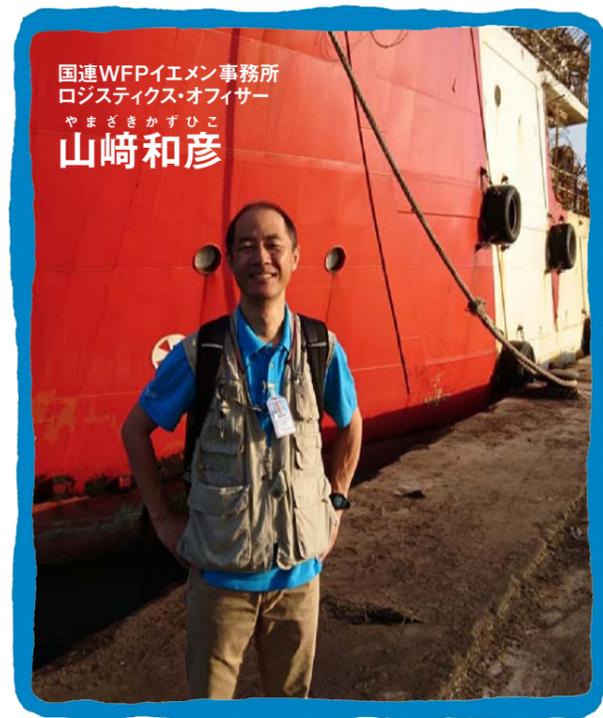
貢献するSDGsの一例



「学校給食や市場に卸す分も収穫できるようになりました」とイリスさん。 ©WFP/Kensuke Hori

多方面にわたる支援の輪

飢餓のない世界を目指して様々な形で国連WFPの支援に携わる人たちの声をお届けします。



国連WFPイエメン事務所
ロジスティクス・オフィサー
やまざきかずひこ
山崎和彦

ホデイダ港、WFPが輸送や臨時の宿泊所として使用している船の前で。

“皆さまからのご寄付は、
支援を必要とする人々にとっては
文字通りの命綱です”

紛争地でも効率的な支援活動を行うために

イエメン・ホデイダ事務所において、ロジスティクス全般（輸送・倉庫）の調整や管理を担当しています。ホデイダには大きな港があり、紛争中でも小麦などを積んだ国連WFPの貨物船が毎週何隻も入港しています。隣接した製粉所で小麦粉にし、イエメン北部の1,700カ所以上にトラックで届けています。

ホデイダの郊外では現在でも戦闘が続いています。支援規模が大幅に増え、支援物資の取扱量も急激に増えたことで様々な問題も発生していますが、それらを速やかに解決しながら、食料を必要としている人々の元へ届くようにすることが我々のミッションです。課題は山積みですが、今後はいかに効率的なサプライチェーンを組み立てていくかに注力していきたいと思っています。

命綱である皆さまからのご支援

現在イエメンは非常に不安定な治安状況にあり衛生状態もよくないため、食事など健康、体調管理には特に気をつけています。約1キロ離れた事務所と宿舎を防弾車で往復する毎日ですが、多くのイエメン人は日本人に対して親しみを抱き、好意的に接してくれます。また、そんな厳しい環境の中、国連WFPのスタッフは全力でイエメンの人々のため支援を続けています。

皆さまからのご寄付は、支援を必要とする人々にとっては文字通りの命綱です。今後も人々の命を守るため、皆さまの温かいご支援を心からお願い申し上げます。

皆さまからの支援から 何倍ものインパクトが生まれます

国連WFP日本事務所は日本政府との連携、民間連携、広報活動を主にを行っています。皆さまからのご寄付は各国における様々な事業で大切に活用されています。私自身、支援の現場において実際にご寄付によって命が救われたり、人々が未来に希望を抱く姿を目の当たりにしてきました。支援を受ける人々は、私たちが想像しているよりも強く、心から感謝しています。そして、何倍にもして皆さまにお返ししたいと思っています。ご寄付は支援の現場で何倍にもなって大きな成果、インパクトを生み出します。

使命は支援の輪を広げること

世界中で支援を必要としている人々に食料を届ける

ために、日本の様々な立場の方とお会いし、支援の輪を広げていくことは私の大きな喜びであり、やりがいです。

一方で、もっと日本の皆さまに人道・開発支援に対する理解や認識をしていただきたいと感じることもあります。もちろん、国内にもたくさん問題は発生していますが、もう少し海外にも目を向けていただければと思います。

まずは、日本の皆さまに世界の飢餓問題や人道・開発支援について知っていただき、理解を深めていただくことが第一歩だと考えています。そして一緒に、飢餓のない世界を目指すムーブメントをつくり、支援に参加する人々を増やし、支援の輪を広げていくことが私の使命だと思っています。



国連WFP
日本事務所代表
やまやなおえ
焼家直絵

「食」は生きていくのに最も必要なもの

僕は2006年から「ダンスで世界を繋ぐ」をテーマにした個人プロジェクトDANCEARTHを立ち上げ、世界20カ国以上を訪れ、その中で貧しい子どもたちにダンスを教えるなどの社会貢献活動を続けてきました。僕はダンスを通じて、世界の人たちを少しでも幸せにできる活動に、本気で取り組んでいきたいと思っています。ダンスをする上でも、身体作りのために食べ物はずごく大事です。僕もたんぱく質をしっかりと摂って筋肉を作ることを心がけていますし、人は食べ物で命を維持できて初めて、勉強や仕事に取り組むことができます。国連WFPの食料支援は、生きていくのに最も必要なものを届ける重要な活動だと思っています。

未来を担う子どもたちに、幸せな世界を手渡す

昨年8月末にホンジュラスを訪れ、初めて国連WFPの支援現場を視察しました。ホンジュラスは人口の60%が貧困下にあり、僕が視察した小学校でも、ほとんどの生徒が朝晩空き瓶などのゴミを拾い、家計を助けていました。以前は一日中ゴミ捨て場で過ごす子どもも多かったけれど、学校給食支援が始まり、昼間は学校に行くようになったようです。子どもたちの栄養状態も改善し、成績も向上したと聞き、嬉しかった。未来を作るのは子どもたちです。目を輝かせながら夢を語っていた子どもたちにはぜひ、平和で幸せな世界を渡したいです。自分も親になり、大人としての責任を更に強く感じるようになりました。

力を合わせ、「飢餓ゼロ」を実現したい

地球には全人口76億人をまかなうだけの十分な食料があるはずなのに、何億人もの子が飢え、死に至る子もいる。そ



©WFP/Kensuke Hori

給食には、地元で採れた野菜が入ることも。保護者や地元の農家など、皆で子どもたちを支えています。

国連WFPサポーター
EXILE USAさん

“目を輝かせながら
夢を語っていた子どもたちにはぜひ、
平和で幸せな世界を渡したいです”

んなことは大至急なくしたい。飢餓ゼロはあまりにも大きな目標で、自分に何ができるのかと思うかもしれません。でも僕は現場を実際に見て、継続的な支援が広がれば飢餓ゼロは絶対達成できると希望が持てたし、皆さんの支援が子どもたちの未来を作っているのだと実感しました。これからも皆さんと一緒に力を合わせ、飢餓ゼロを目指していきたいです。

• USAさんは、マンスリーサポーターとしても支援くださっています。

WFPマンスリーサポーターの声



SUPPORTER: 1
長島博之さん

1人でも多くの子どもに
夢を持ってほしい

何か社会貢献活動はできないかと考えていた2010年頃に、本で国連WFPのことを知りました。中でも“学校給食支援”は使い道が明確で子どもたちに夢を与えられると思い、マンスリー募金を始めました。食料の提供は短期的な解決策ですが、“学校給食支援”は子どもたちが毎日学校へ通うきっかけとなり、勉強を通して将来の夢を持てるようになることができます。一人でも多くの子どもに夢を持ってほしいと思い、継続的な支援が重要だと考えて毎月支援してきました。世界の飢餓問題について多くの方々に知っていただき、1日でも早く飢餓のない世界を実現するため、国連WFPを継続的にサポートできればと思っています。



SUPPORTER: 2
小林千恵子さん

子どもの成長を願う
一人の親として

留学経験のあるフィリピンが2013年に巨大台風で襲われた時、いち早く現地に入り、物資を届ける団体に寄付したいと国連WFPに募金をしました。緊急支援にとどまらず、自立支援まで続けていることに共感し、マンスリードナーとしても寄付を続けています。

国連WFPから届くお知らせで、世界には大変な状況にある人達がいること、日々奮闘する職員がいることなどを知ることができます。栄養不良だった幼い子どもが支援を受けて元気になり、「よく遊び、よく食べるようになった」と喜ぶ母親の話を読むと、同じように子どもの成長を願う親として明るい気持ちになります。微力ですが、寄付を続けることで1人でも多くの人の笑顔につながればと願っています。

企業・団体の取り組み事例

2018年は企業・団体の皆さまから、4億2,550万円のご寄付が寄せられました。イベント開催やキャンペーンなどによる国連WFP支援事例をご紹介します。

寄付つき商品の販売

レッドカップキャンペーンとは



給食を入れる容器として使っている「赤いカップ」を目印に、企業が寄付つき商品を展開し、売上の一部を学校給食支援に寄付する取り組みです。

2018年は新たに3商品がキャンペーンに参加。企業の皆さまの商品を通じて、子どもたちの笑顔が広がっています。



泉南乳業 (株)
酪農牛乳、新泉牛乳、アイスコーヒ、果汁100%搾り オレンジ・アップル・フルーツミックス、等

(株)フルボン
ザグビー(ロメロ・ブリット)

アサヒ飲料(株)
アサヒ おいしい水 天然水 ラベルレスボトルPET1.9L

2018年度キャンペーン展開商品

食品関連	カンロ (株) カンロ飴	キャンベルジャパン (株) キャンベル濃縮缶スープ、アーノッツティムタム	キユービー (株) キユービーベビーフード「ハッピーレシビ」シリーズ	プリマハム (株) 直火焼 デミグラスハンバーグ	全国農協食品 (株) 国産果実、米、冷凍ピラフ、グラタンなど	ハウス食品 (株) 「とんがりコーン」シリーズ
	日清食品 (株) 日清チキンラーメン	(株) 湯池屋 ポテトチップスのり塩5個パック	(株) 中村屋 インドカレー(ピーフスパイシー、スパイシーチキン、ベジタブル)	日本生活協同組合連合会 CO・OP コープヌードルなど	(株) ニコン ニコンようかん	マルイ食品 (株) 「チキン南蛮」シリーズ、「南国元氣鶏」シリーズなど
	(株) ロッテ ガーナリップル	イカリソース (株) イカリウスターソース 300ml、500mlなど	昭和産業 (株) おいしく焼ける魔法のお好み焼き粉など	日清食品冷凍 (株) 冷凍日清チキンラーメン 金の炒飯		

食品以外	(株) 明光ネットワークジャパン 明光義塾オリジナル教材	(株) 河本総合防災 蓄圧式粉末(ABC) 消火器	横浜市 よこはまウォーキングポイント事業	(株) グラム/Q-pot. ランドセル Q-pot CAFE.の紅茶	(株) ユニーク サイレントマウス&キーボードセット
-------------	--	-------------------------------------	--------------------------------	---	--------------------------------------

その他の寄付つき商品

生活協同組合 ユーコープ みるくぼきん	(株) 高島屋 チャリティーサンタ
(株) ディノス・セシール DAMA collection カタログ	(株) AREXY 区分マンション

◆ ご支援企業様紹介 ◆

日本ケンタッキー・フライド・チキン(株)
全国約1,150店舗でさまざまな寄付つき商品の販売や、クーポンの配布を実施。140万人以上の子どもたちへの学校給食支援へとつながりました。

チャリティーカーネル貯金箱

チャリティーカーネルマスキングテープ

開運チャリティーおみくじ

給与天引き・マッチングプログラム

国連WFPの活動に賛同する社員の皆さまの給与から、定期的に一定額を差し引いた寄付や、社員の寄付に企業から同額を加えるマッチング寄付をいただきました。

株式会社三菱UFJ銀行/三菱UFJインフォメーションテクノロジー株式会社/大和ハウス工業株式会社/株式会社オリエントランド/株式会社中村屋/森永乳業株式会社/三井化学株式会社/株式会社日本アクセスなど

株主優待制度を通じた支援

株主優待制度の中で「国連WFPへの寄付」を選択肢のひとつとして設定し、株主優待相当額を寄付していただきました。

株式会社中村屋/日清食品ホールディングス株式会社/日本ハム株式会社/キッコーマン株式会社/新晃工業株式会社/全国保証株式会社/株式会社クラレ/カンロ株式会社など

イベント開催

社員食堂にてチャリティーメニューを販売し、売上の一部を寄付いただきました。



(株) グリーンハウス、カンロ(株) 世界食料デースペシャルコラボメニュー

その他の支援

◆ **クレジットカードのポイントやカタログからの支援**
リンベル株式会社/三井住友カード株式会社/株式会社クレディセゾン/アメリカン・エキスプレス・インターナショナル, Inc./三菱UFJニコス株式会社/株式会社ジェーシービー

◆ **社員参加型の支援**
日立キャピタル株式会社(献血に参加した社員数に応じて企業よりマッチング寄付)/日清食品ホールディングス株式会社(社員が歩いた歩数に対して企業よりマッチング寄付)

◆ **リサイクルによる支援**
株式会社バリューブックス(古本の買取相当額を寄付)



◆ **レジ袋有料販売収益による寄付**
株式会社カスミ(レジ袋無料配布中止によるレジ袋有料販売収益からの寄付)

株式会社カスミレジ袋削減運動の様子

◆ **金融商品による支援**
大和証券株式会社(社会貢献ラップの販売、収益の一部を寄付)

募金活動

店頭における募金箱の設置、イベントや街頭、またインターネットを通じた募金活動で、国連WFPの活動をご紹介いただくと共に、皆さまから寄せられた募金を寄付いただきました。



©宗教法人松縁神道大和山

株式会社ファミリーマート(ファミリーマート夢の掛け橋募金)/一般社団法人日本フードサービス協会(ジェフ愛の募金)/日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社/株式会社セブン&アイ・フードシステムズ/株式会社朝日ネット(持続的食糧支援募金)/宗教学人生長の家(一汁一飯の日募金)/宗教学人立正佼成会佐倉教会(青年の日国連WFP食糧支援募金)/宗教学人松縁神道大和山など

ウォーク・ザ・ワールド自主開催

チャリティ・ウォーク「WFPウォーク・ザ・ワールド」(P.5)の自主開催。下記5カ所において計133名の皆さまが参加し、飢餓問題の啓発を行うと共に、参加費の一部が学校給食支援に寄付されました。

株式会社日本アクセス(開催地:長崎市)/チューリッヒ保険会社(開催地:長崎市)/日清オリオグループ株式会社(開催地:知多市)/国連WFPサポーターズなごや(開催地:名古屋)/WFP応援団(開催地:東京都)



株式会社日本アクセス 自主開催の様子

◆ ご支援企業様の声 ◆

ファミリーマートは国連WFP協会の想いに賛同し、2006年より店頭募金「ファミリーマート夢の掛け橋募金」を通じてご支援させていただいております。これからも食品を扱う業界の一員として、「食べる」ことを支援し、世界の方々が笑顔で豊かな生活を送れる持続可能な社会の実現に向けて貢献して参ります。



ファミリーマートの店頭募金箱



株式会社ファミリーマート CSR・管理本部 CSR・総務部 **岩崎 浩** さま

